

を述べて、相違点と共通点とを比較検討した。

質問 座長(微生物)吉岡 守正

1. 腎透析による症候群精神病のケースは他にもありますか?

2. その場合は一過性ですか?

応答 演者(精神科)古城 慶子

1. 腎不全における精神症状の発生頻度については未だ症例も少ないので、今後症例を重ねて検討をかさねたい。

2. 種々様々の精神病理学的病像を呈する可能性がある。ここで発表した症候性群精神病以外に、いわゆる心因反応的に惹起される精神症状もある。透析自体が命網という意味合いからも充分考えられる。

6. いわゆるバンコースト型肺癌に対する放射線治療経験

(放射線科)

○後藤真喜子・大川 智彦・渡辺 紀子・喜多みどり・関口 建次・池田 道雄・田崎 英生

1970年～1979年の10年間に、東京女子医大放射線科で扱った原発性肺癌は213例で、このうちいわゆるバンコースト型肺癌は10例(4.6%)であつた。年齢は50～69歳で中央値66歳。男性6例、女性4例、組織型は扁平上皮癌6例、腺癌1例、大細胞癌1例、不明2例であつた。放射線を4,000rad以上照射できた症例には全例疼痛の軽快を認めた。しかし生存期間は2～14カ月で中央値7カ月であり延命効果は認められなかつた。剖検を施行した例においては局所のコントロールができておらず、それが直接死因となつていた。局所コントロールを得るためには6000rad程度のX線照射では不可能と思われ、高LET、放射線増感剤、化学療法の併用、その他の強力な治療が必要と考える。

質問 座長(微生物)吉岡 守正

他の治療法は既に施行しているのですか?

応答 演者(放射線科)後藤真喜子

6,000rad程度のX線照射のみでは局所コントロールを得ることはむずかしいので、これからのバンコースト型肺癌に対する治療としては、放射線、感剤、化学療法の併用等が必要であり、施行していきたいと考える。高LET放射線療法は当科の設備では施行できない。

7. Fisher 症候群の若年発症の2症例

(脳神経センター神経内科)

○福間 玲子・山根 清美・相川 隆司・

小林 逸郎・竹宮 敏子・丸山 勝一

症例1:10歳、女。主訴:複視、頭痛、悪心、現病歴:昭和56年6月18日より複視、次いで悪心、嘔吐、頭痛出現。29日当科受診。7月6日精査のため当科入院。入院時、右眼瞼下垂、両側外転障害、上方注視障害、輻輳眼振、水平性注視眼振、上眼瞼向き眼振などの異常眼球運動を認めたが瞳孔異常は認められなかつた。腱反射は消失し、つぎ足歩行は拙劣であつた。髄液検査では蛋白細胞解離を認め、電気眼振検査では上記眼振以外に hypometria, hypermetria, pursuit eye movement で saccadic な動きを示した。また脳波では過呼吸で small single spike がみられた。7月15日よりプレドニゾン 25mg/日投与し、つぎ足歩行が改善、外転障害、右眼瞼下垂、輻輳眼振が消失し、次いで水平性注視眼振が消失したが、腱反射消失は持続した。また、15カ月後の脳波でも irregular spike and wave,  $\theta$  burst がみられた。

症例2:6歳、男。現病歴:昭和56年5月下旬より感冒様症状が出現。6月10日複視出現、18日右眼瞼下垂出現し、精査のため当科入院。入院時、両側眼瞼下垂、内転を除く眼球運動障害が認められたが眼振、瞳孔異常は認められなかつた。腱反射は消失し、つぎ足歩行は不可能だつた。髄液検査で蛋白細胞解離はなかつたが、脳波で右半球優位に  $\theta, \delta$  波の出現がみられ、電気眼振検査では dysmetria が認められた。経過観察のみで第13病日、つぎ足行が、次いで垂直眼球運動、両側外転が可能となつた。この時期に flutter like oscillation が一過性にみられた。第22病日、複視、眼瞼下垂も消失したが、腱反射消失は持続していた。

まとめ:1. 比較的稀であると考えられる若年発症の Fisher 症候群について報告した。2. 本報告の2症例とも脳波異常が認められたが、若年発症 Fisher 症候群の特徴と考えられた。3. 輻輳眼振, flutter like oscillation は従来の Fisher 症候群の報告にはほとんど認められず、興味深い徴候であつた。

質問 座長(微生物)吉岡 守正  
先行する感染症はどのようなものですか?

応答 演者(神経内科)福間 玲子

先行感染は上気道感染が多く、ウイルス抗体価の上昇する例も少なくない。免疫反応がその機序として考えられているが、その機序についてはまだ定説は存在しない。

追加 (第二病院小児科)藤田 敦子  
10歳女兒の Fisher 症候群の1例